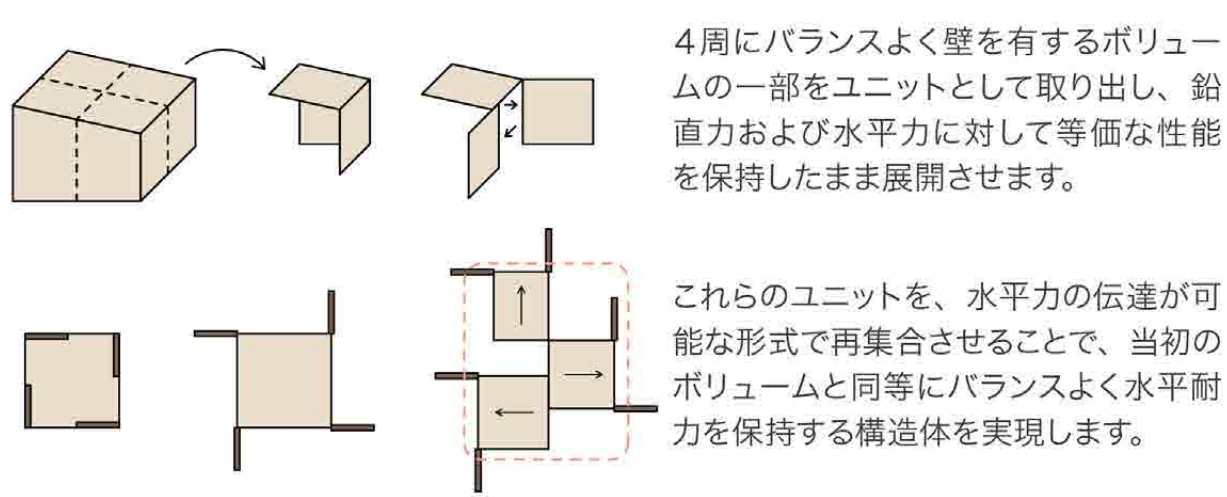
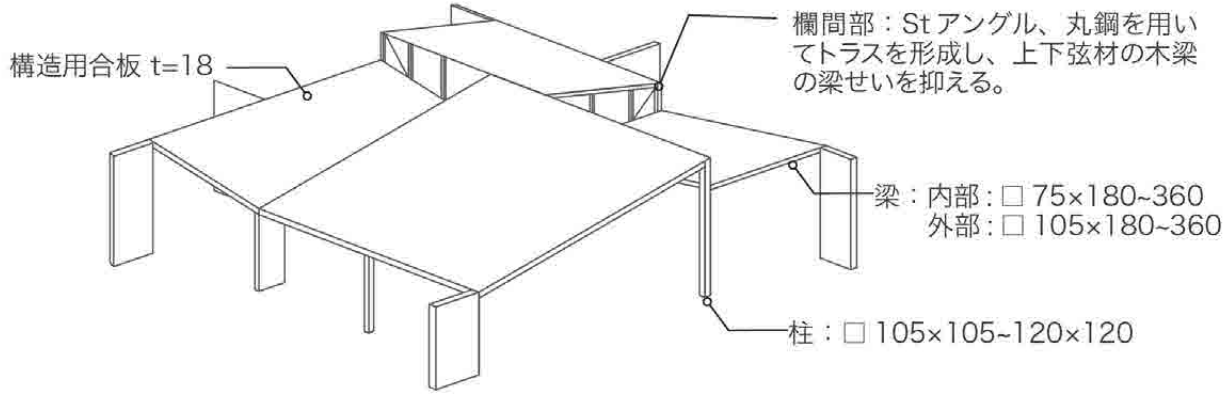


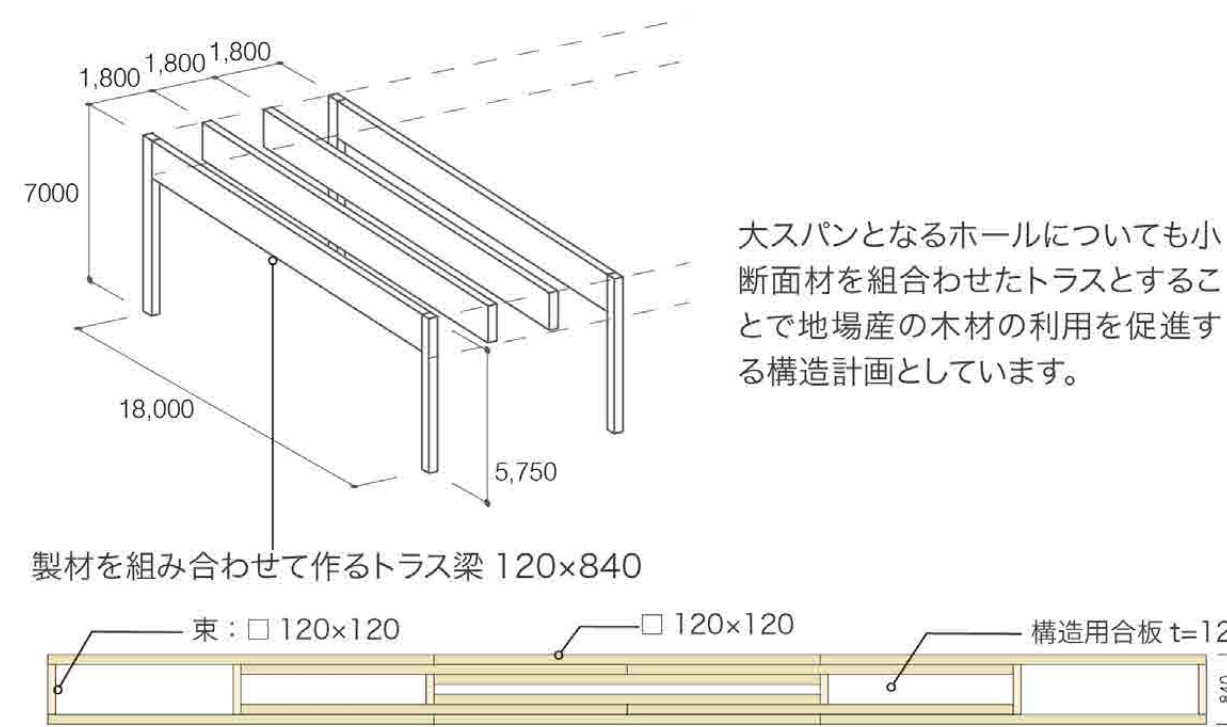
壁と屋根がぱらぱらと集まって出来る構造



基準モジュール



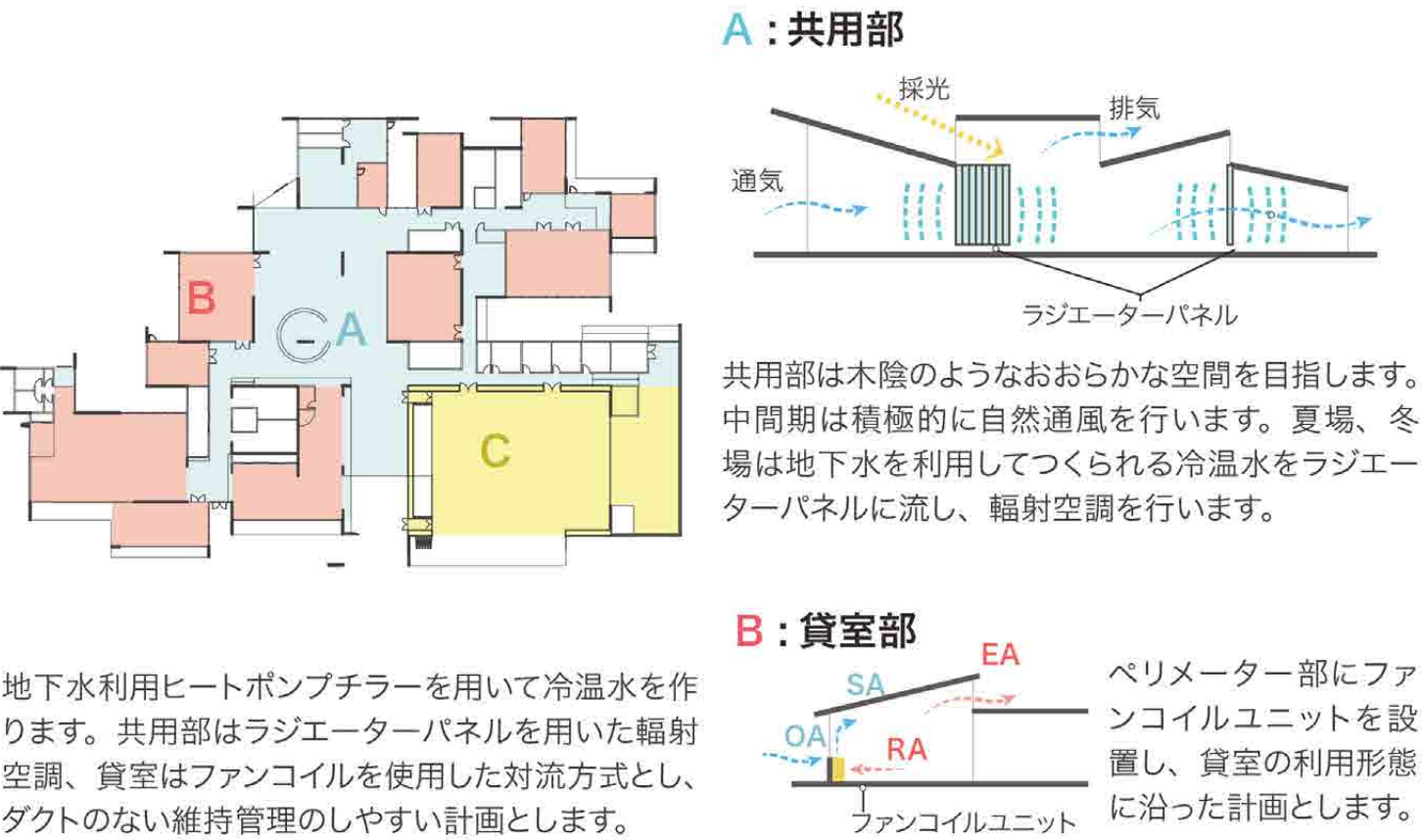
ホール部分



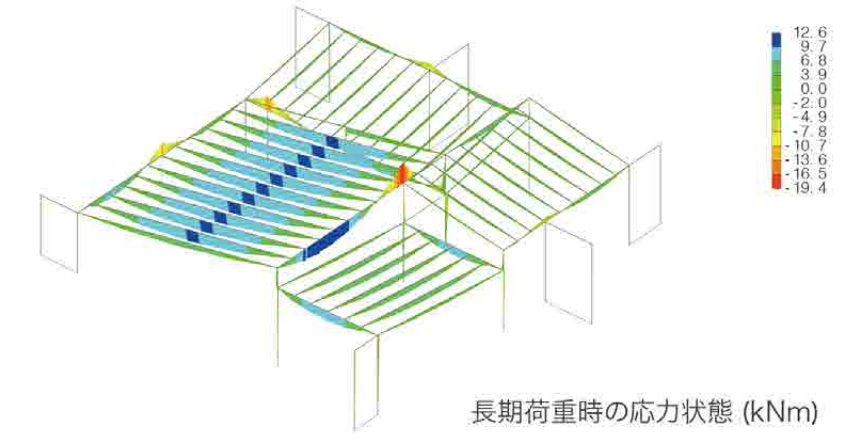
設備

場所によって使い分けるおおらかな設備計画

豊富な伏流水を積極的に活用し、消費エネルギーを削減します。

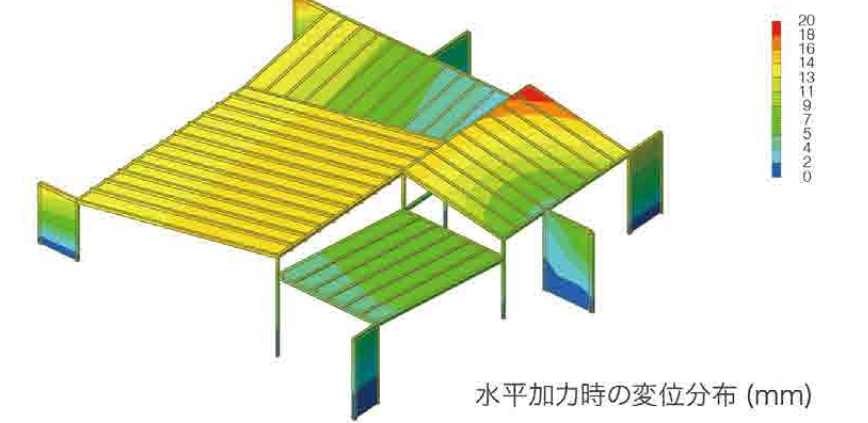


長期荷重時について



屋根のサイズ、スパンに応じた横架材により屋根を支持します。細かなピッチで垂木のように小梁を配することでできる限り集成材や大断面材の利用を抑える計画としています。断面設計においては長期的にも積雪を考慮した荷重計画として屋根の安全性について十分配慮した計画としています。

水平加力時について



いくつかのボリュームが集まり一体の建築となるため、耐力壁についてもそれらのバランスを考慮し、十分な安全性を確保した配置としています。構面の延長上に配する耐力壁を有効に配置し、それら適切に用いることで、開放的な建築空間を実現しています。

製材の使用について



構造のイメージモデル

